

パフォーマンス評価のための 課題の作り方

飯尾 健 (徳島大学 高等教育研究センター 助教)

講師略歴

令和2年3月、京都大学大学院教育学研究科博士後期課程(高等教育開発論講座)研究指導認定退学。京都大学高等教育研究開発推進センター研究員を経て、令和2年9月より現職。主な研究テーマは情報リテラシー教育・高等教育学。

プログラム概要

パフォーマンス評価とは、〇×式や多肢選択式、空欄記入式のテストではなく、レポート・論文を含む文章での記述や、実技、成果物の作成等を通じて学生の学習成果を評価する方法です。パフォーマンス評価により、単なる学習内容の記憶だけでない深い理解や、現実に近い場面で学習内容を発揮できるか、さらには知識だけではない判断力や表現力等も評価することが可能です。しかし、その方法は分野や内容、さらにその授業や大学全体が目指す目標に応じて様々な形があり得ます。

このプログラムでは、まずパフォーマンス評価とは何か、どのように自分の授業でパフォーマンス評価を作成したり、既存の課題をパフォーマンス評価に置き換えるかについて、講義とグループワークを用いて理解を深めることを目的としています。

皆さまのご参加をお待ちしております。

準備物・事前課題

自身の授業で行っている課題(グループワークで使用)

主な受講対象者

ルーブリックの利用を含めたパフォーマンス評価に関心がある教員。午前に2501A「ルーブリック評価入門」を受講していると望ましい。

到達目標

1. パフォーマンス評価とは何かを説明することができる。
2. 自身の授業にどのようなパフォーマンス評価がふさわしいかを判断できる。
3. テスト形式の課題をパフォーマンス評価に置き換えることができる。

日時

8月25日(水)12時30分～14時30分